

#12 キリストは彼の肉体と成ることから、彼の昇天を
経過し、彼の再来に至るまで、地上での神の行動の中
心である (民数記結晶の学び) 2019/5/20-26

**I. 神が彼の民を一般的に導くのは雲と二本の銀のラッ
パによってでしたが、彼の民を特別な方法で導くのは契
約の箱を通してでした。この箱は、昇天における十字架に
つけられ復活したキリストの予表です: 民 10:33-34** こう
して、彼らはエホバの山から三日の道のりを進んだ。エホ
バの契約の箱は三日の道のりの間、彼らに先立って進み、
彼らのために休息する場所を捜し求めた。彼らが営所か
ら出立するとき、昼はエホバの雲が彼らの上にあった。

A. ですから、神の民の唯一の指導者はどの人でもなく、
十字架につけられ復活したキリストです。**B.** 彼は指導者
であり、クリスチャン生活の長く険しい行程において、私た
ちを安息の正しい場所に導きます。**C.** 契約の箱の導きは、
キリストの導きが信実で、契約にしたがっていることを
示します:**1.** 神はアブラハムまた彼の子孫と契約を結ん
で、彼らを良き地にもたらしました。**2.** 最終的に、神の契
約は箱の中に置かれました。こうして、この箱は契約の箱
と呼ばれました。**3.** ですから、私たちを安息の場所に導く
キリストは、契約のキリスト、神の信実のキリストです。

**II. 民数記 10:35 と 36 は言います、「契約の箱が出立す
るとき、モーセはこう言った、『エホバよ、立ち上がって、あ
なたの敵を散らしてください。またあなたを憎む者が、あな
たの御前から逃げ去るようにしてください』。また、それがど
どまるとき、彼は言った、『エホバよ、お帰りください。イスラ
エルの何千万の民のもとに』」:****A.** 民数記 10:35 は、詩篇
68:1 で引用されています。パウロはエペソ 4:8 から 10 で、
詩篇 68 篇の言葉をキリストの昇天に適用しました。です
から、この節の立ち上がることは、キリストが彼の昇天にお
いて天に上って行くことを指しています。**B.** 民数記 10:35 の
立ち上がることが、キリストが彼の昇天において天に上
って行くことを指しているの、モーセが 36 節で語った「お
帰りください」という言葉は、キリストの再来を指しているに
違いありません。**C.** 35 節と 36 節のモーセの言葉は、神
のエコノミーの全景を描写しています。それはキリストが肉
体と成って契約の箱、すなわち三一の神の具体化となる
ことから、彼の昇天を経過し、彼の再来に至ります。**同**

**III. 詩篇 68 篇は、民数記 10:35 と 36 の解釈であり、地
上での神の行動の中心としてのキリストを啓示していま
す: 民 10:35 契約の箱が出立するとき、モーセはこう
言った、「エホバよ、立ち上がって、あなたの敵を散らして
ください。またあなたを憎む者が、あなたの御前から逃げ
去るようにしてください」。****A.** 神の行動は、契約の箱を伴
う幕屋を立てた後に、始まりました。契約の箱を伴う幕屋
は、キリストが肉体と成って地上での神の住まいとなり、彼
ご自身を神のエコノミーにおける神の行動の中心として
いたことを表徴します。詩 68:1 神よ、立ち上がって、敵を散
らしてください。また彼を憎む者が、彼の御前から逃げ去
るようにしてください。**B.** 契約の箱を伴う幕屋の中の神が、
シナイ山から荒野を経過してシオンの山まで行動したこと
は、キリストにある神が、肉体と成ることから昇天まで行動
したことの予表でした。**C.** 神は依然としてこの地上で
行動し、召会の中でまた召会を通して行動し、キリストを
召会の中心として行動しています。**D.** 人の中での神の
行動は、人を神化すること、すなわち人を神格において
ではなく、命と性質において神と同じにすることです。**同**

**IV. 詩篇 68 篇は、神が中心としてのキリスト(契約の箱
によって予表される)の中で勝利を得たことを啓示して
います:****A.** 「神よ、立ち上がって、敵を散らしてください。

また彼を憎む者が、彼の御前から逃げ去るようにして
ください」(詩 68:1) — 契約の箱(キリストの予表)が行
った所はどこでも、勝利がありました。**B.** 「もろもろの軍勢
の王たちは逃げる。彼らは逃げる！」(12) — これらの
打ち破られ散らされた王たちは、サタンと支配者たち、
すなわち反逆的な天使たちを予表します。

C. 「主は命令を与えられる。喜ばしいおとずれを伝える
女たちは大きな群れをなしている」(11) — イスラエルの
これらの女たちは、福音を言い広める弱い者たちを表徴
します。**D.** 「家に住む女は分捕り物を分ける」(12) — 分
捕り物は、キリストが成就し、完成し、到達し、得たすべ
の獲得、すなわち彼の死、復活、昇天の勝利の収穫を
表徴します。**E.** 「あなたがたは羊の囲いの間に横たわっ
ても」(13) — 羊の囲いの間に横たわることは、神の選
民に対する備えと顧みの中に安息することを表徴します。

F. 「はとの翼は銀で覆われ、その風切り羽は緑がかつた
黄色の金で覆われる」(13) — この節は、分捕り物の間
での四つの項目を啓示します:**1.** はとの翼は、その霊の行
動する力を表徴します。**2.** 銀は、私たちの義認のため
の贖いにおけるキリストを表徴します。義認は、白色、す
なわち是認の色で示されています。**3.** 風切り羽(鳥の
翼の末端の羽で、飛んで舞い上がる力を供給する)は、
その霊の飛んで舞い上がる力を表徴します。**4.** 風切り
羽を覆っている緑がかつた黄色のきらめく金は、神の性
質が神聖な命と栄光の中できらめくことを表徴します。

5. 以上の四つの項目の内容は、キリストが彼の勝利の
中で神の選民の享受のために獲得した分捕り物であり、
実は三一の神と、彼の全体的で完全ですべてを含む救
いのあらゆる項目です。**6.** 神の選民は、以上の項目
すべてをキリストにある彼らの分け前として享受し、それら
を他の人たちに喜ばしいおとずれとして告知させます。**同**

V. 詩篇 68 篇は、キリストの昇天を啓示しています:

詩 68:18 あなたは高い所へ昇られた。あなたはとりこ
にされていた者たちを、とりことして引いて行かれた。あ
なたは人々の間で、反逆する者たちの間でさえ、賜物
を受けられた…。**A.** 「あなたは高い所へ昇られた」 —
これは、宇宙の最も高い所を指しています。**B.** 「あな
たはとりこにされていた者たちを、とりことして引いて行
かれた」。**1.** 「とりこにされていた者たち」は、贖われた
聖徒たちを指します。彼らは、キリストの死と復活によ
って救われる前、サタンによってとりこにされ、獄に入れ
られていました。**2.** キリストはサタンを打ち破り、私たちを
含めて、サタンのとりこを捕らえました。次にキリストは、
将軍がとりこを引いて行くように、彼が天に昇った時、
私たちを御父に引いて行きました。**3.** 詳訳新約聖書
は、エペソ 4:8 の「彼は…とりこにされていた者たちを
とりことして引いて行き」を、「彼は征服された敵の行列を
引いて行き」と訳しています。キリストが昇天された時、
これらの征服された敵の行列があつて、それが戦場か
らとりことして引いて行かれ、キリストの勝利を祝賀しま
した。エペソ 4:8 そこで聖書はこう言っています、「彼は
高い所へ昇られた時、とりこにされていた者たちをとり
ことして引いて行き、人々に賜物を与えられた。」

**VI. 詩篇 68 篇は、キリストが賜物を受けたことを啓示して
います:****A.** 「あなたは人々の間で、反逆する者たちの間で
さえ、賜物を受けられた」(18) — 私たちは、キリストによ
って捕らえられ、キリストによって御父にささげられ、それ
から御父によって賜物としてキリストに与えられました。**B.** キ
リストが受けた賜物は、賜物のある信者たちとなりました。
キリストは彼らを彼のからだに与えて、からだを建造します。

VII. 詩篇 68 篇は、神の住まいの建造を啓示しています:

A. 「それは、エホバ・神が、彼らの間に住まわれるためである」(18) — 賜物のある人としての賜物、すなわちキリストにある信者たちは、共に建造されて神の住まいとなります。この住まいは、召会、キリストのからだを表徴します。エペソ4:11-12 そして彼ご自身は、ある人たちを…与えられました。それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり。

B. 「みなしごの父、またやもめのための裁きつかさは、聖なる住まいにおられる神である。神は孤独な者を家族の中に住ませ、捕らわれ人を繁栄の中にもたせられる」(詩 68:5-6) — 神の住まいは、信者たち(窮乏の者、孤独な者、拘束された者)の住まいでもあります。

C. 「神が住むことを願われたあの山」(詩 68:16)は、シオンの山、宇宙の最も高い所です。

VIII. 詩篇 68 篇は、神の家の中で神を享受することを啓示しています: **A.** 神の家の中で神を享受することは、神の住まい(召会)の建造の後に来ます。 **B.** 「主はほむべきかな。彼は日ごとに私たちに善きものを積み込まれる。神は私たちの救いである。セラ」(詩 68:19) — この善きものとは、三一の神、すなわち銀で覆われたはとの翼と、緑がかつた黄色のきらめく金で覆われた風切り羽です。 **C.** 「神は私たちにとって救いの神である。死から出て行かせるのは、エホバ・主による」(詩 68:20) — 私たちは、神を私たちの救う命として享受するとき、死を逃れます。 **D.** 私たちは神の家の中で、敵に対する神の勝利も享受します。

IX. 詩篇 68 篇は、神の新約エコノミーにしたがって神を賛美することを啓示しています: **A.** 「神よ、彼らはあなたの行進を、わが神、わが王の行進を聖なる所で見ました」(詩 68:24) — 「彼ら」は敵を指しており、「行進」は神の活動を指しており、「聖なる所」は召会を表徴しています。 **B.** 「歌う者たちが前を行き、演奏する者たちが後になり、その間で処女たちがタンバリンを鳴らす」(詩 68:25) — 「処女たち」は信者たちを表徴します。

C. 「会衆の中で神をほめたたえよ。イスラエルの源から出たあなたがたよ、エホバをほめたたえよ。そこには、彼らを支配する小さなベニヤミンがおり、彼らの仲間たちの中にユダの首長たちがおり、ゼブルンの首長たち、ナフタリの首長たちもいる。あなたの神は、あなたに力を命じられた。神よ、あなたが私たちのために行なったことを強めてください」(詩 68:26-28)。

D. 神の選民による神に対する賛美の中で、神の新約エコノミーにしたがった予表の光景が描写されています。それは、キリストが神の救いのために神の贖いを完成することについて、また福音の美しい言葉をもってキリストの成就した喜ばしいおとずれを流布することについてです: **1.** 詩篇 68:27 は、「小さなベニヤミン」について語っています: **a.** 悲しみの子(ベン・オニ)として、ベニヤミンが予表するのは、悲しみの人として肉体と成って地上で人の生活をし、神の永遠の贖いを成就して、神の満ち満ちた救いを成し遂げたキリストです。 **b.** 右の手の子として、ベニヤミンが予表するのは、右の手の御子として復活し、勝利し、昇天して、天で務めを行ない、神の贖いの適用を執行し、神の救いを行なうキリストです。 **2.** 詩篇 68:27 は、「ユダの首長たち」について語っています: **a.** ユダは、神の民の勝利(力と王の杖を持つ獅子)、また神の民の平安(シロ)としてのキリストを予表します。 **b.** ユダが啓示しているのは、キリストの勝利、キリストの王国、キリストにある享受と安息です。 **c.** ユダ

は王の部族であり、地上での神の王国のために、戦士の部族であるベニヤミンが絶えず共にいました。

3. 詩篇 68:27 は、「ゼブルンの首長たち」について語っています: **a.** 海の岸(ガリラヤ)に住み、船のための岸となるゼブルンは、神の福音を宣べ伝えることの輸送と拡大のための、福音伝道の「岸」としてのキリストを予表します。 **b.** ペンテコステの日に、少なくとも百二十の福音の「船」(彼らはみなガリラヤ人でした)が出帆し、福音を拡大しました。 **4.** 詩篇 68:27 は、「ナフタリの首長たち」について語っています: **a.** ナフタリは、復活において死から解き放たれた方としてのキリストを予表し、「放たれた雌鹿」によって表徴され、彼の福音を宣べ伝えるために美しい言葉を語ります。 **b.** ゼブルンとナフタリの民はいずれも、ガリラヤの人であり、キリストの福音は彼らから拡大し、宣べ伝えられ、普及しました。 **c.** 予表において、ゼブルンとナフタリは、神の救いのために成就されたキリストの贖いの喜ばしいおとずれを拡大し普及する一つのグループを形成します。

X. 詩篇 68 篇は、宮から神の都へ拡大することを啓示しています: 詩 68:28-29 あなたの神は、あなたに力を命じられた。神よ、あなたが私たちのために行なったことを強めてください。エルサレムにあるあなたの宮のゆえに、王たちは贈り物をあなたに持って来るでしょう。

A. 「神よ、あなたが私たちのために行なったことを強めてください。エルサレムにあるあなたの宮のゆえに」(詩 68:28) — 神が彼の選民のために行なったことを強めた後、神の家の中で神を享受した影響は、エルサレムの都全体に拡大します。 **B.** 神の家は地方召会を表徴し、エルサレムの都は王国を、すなわち召会の強化と保護を表徴します。

XI. 詩篇 68 篇は、神のために地を獲得することを啓示しています: **A.** 神を享受した影響は、神のために全地を獲得します。 **B.** 地の諸王国は神を賛美するように命じられます。 **C.** 詩篇の作者は、神を賛美しほめたたえることによって、結んでいます。

Crucial Point ①: 神の地上での行動にあずかるために、召会生活を尊ぶ

OL1: 神の行動は、契約の箱を伴う幕屋を立てた後に、始まりました。契約の箱を伴う幕屋は、キリストが肉体と成って地上での神の住まいとなり、彼ご自身を神のエコノミーにおける神の行動の中心としていたことを表徴します。 **OL2:** 契約の箱を伴う幕屋の中の神が、シナイ山から荒野を通過してシオンの山まで行動したことは、キリストにある神が、肉体と成ることから昇天まで行動したことの予表でした。 **OL3:** 神は依然としてこの地上で行動し、召会の中でまた召会を通して行動し、キリストを召会の中心として行動しています。

神の行動は、契約の箱の幕屋を立てた後、始まりました。契約の箱を伴う幕屋は、キリストが肉体と成って地上で神の住まいとなり、彼ご自身を神のエコノミーにおける神の行動の中心としていたことを表徴します。これは、神が道、すなわち契約の箱を伴う幕屋を設立してはじめて、地上で行動することができることを意味します。その幕屋の中で、神は彼の民と共にいることができ、その中で、民は神と接触し、彼と共にいることができます。旧約には予表がありますが、新約には契約の箱の幕屋の実際であるキリストがあります。神の行動は、…シナイ山(律法)から、荒野(地)を通過して、シオンの山(天にある神の住まいを表徴する)、すなわち神の住まいに至ります。…今日私たちは、地上での神の行動にあつて、肉体と成ることから昇天までの彼の行動にあつて、勝ち誇り、喜び踊るべきです。

神は地上で、キリストを中心とする彼の住まいの中で、

また住まいを通して行動しておられました。私たちはこの三つの点について、はっきりしていなければなりません。

①神は地上で行動しておられる、**②**神の行動は幕屋の中に、幕屋と共にあった、**③**神の行動は幕屋の中で中心としてのキリストと共にあった。詩篇 68 篇はこの背景をもって書かれました。それは今日、地上における神の行動の状況の正確な描写です。神はこの地上で行動し、彼の召会の中でまた召会を通して行動し、キリストを召会の中心として行動しておられます。

適用:青年在職/大学院生編

神は地上で行動しています。神の行動は、神の幕屋である召会と共にあります。そして幕屋の中心はキリストです。このように見ていくと、あなたは召会生活を尊ぶべきです。あなたが神の行動にあずかりたいなら、召会生活にとどまり、召会の行動に緊密に従っていく必要があります。ビジネス・ライフや研究生活を理由に召会生活を犠牲にしてはいけません。もちろんビジネス・ライフや研究生活をいい加減に送ってはいけません。それを証しのために主に引き上げていただくべきです。しかし優先順位を召会生活に置くことを訓練してください。そうすればあなたは神の地上での行動に、召会に従うことであずかることができます。

召会生活の中でのみ、神の地上での行動にあずかることができるというビジョンを見て、あなたは自分のビジネス・ライフ等を再考慮し、再構築すべきです。ビジネス・ライフ等のポジショニングは、**①**優先順位は召会生活の次、**②**召会建造のために引き上げられるべきである、というものです。このポジショニングはあなたの宗教観念とは逆です。したがって御言葉に基づき、主の御前で祈りの中でよくよく再考慮する必要があります。その後、ポジショニングが定まったら、実際的に再構築してください。このようにしてあなたは召会生活の中でキリストを中心とすることを経験するので、真に神の地上での行動にあずかるのです。

祈り:「おお主イエスよ、あなたを愛し、召会生活を愛します。神のエコノミーは私の宗教観念とは別の領域にあります。神のエコノミーによるとキリストと召会が優先順位 No.1 ですが、私の宗教観念によるとビジネス・ライフが優先順位 No.1 です。私の思いの中の観念が更新されるために、私は霊の中で、思いを霊に付けてこの神聖な優先順位について祈ります。同時に私のビジネス・ライフを主の証しのために用いてください。このようにして私が全生涯にわたって神の地上での行動にあずかることができますように。神のみこころが地上で召会を通して遂行されますように。」

Crucial Point②:福音を人々に運搬し、福音の良き言葉を語る

OL1:詩篇 68:27 は、「ゼブルンの首長たち」について語っています。海の岸(ガリラヤ)に住み、船のための岸となるゼブルンは、神の福音を宣べ伝えることの輸送と拡大のための、福音伝道の「岸」としてのキリストを予表します。**OL2:**ペンテコステの日に、少なくとも百二十の福音の「船」(彼らはみなガリラヤ人でした)が出帆し、福音を拡大しました。**OL3:**詩篇 68:27は、「ナフタリの首長たち」について語っています。ナフタリは、復活において死から解き放たれた方としてのキリストを予表し、「放たれた雌鹿」によって表徴され、彼の福音を宣べ伝えるために美しい言葉を語ります。**OL4:**ゼブルンとナフタリの民はいずれも、ガリラヤの人であり、キリストの福音は彼らから拡大し、宣べ伝えられ、普及しました。

船の港のために海辺(ガリラヤ)に住んでいるゼブルンは、神の福音を宣べ伝えることの輸送と拡大のための、福音伝道の港としてのキリストを予表します。福音は完成されましたが、「船」によって福音を拡大する必要があります。ペンテコステの日に、少なくとも百二十の福音

の「船」(彼らはみなガリラヤ人でした)が出帆し、福音を拡大しました。

創世記 49:21 は、ナフタリは放たれた雌鹿であって、良き言葉を語ると告げています。ナフタリは、復活において死から解き放たれた方としてのキリストを予表し、「放たれた雌鹿」によって表徴され、彼の福音を宣べ伝えるために良き言葉を語ります。復活において、キリストは彼の弟子たちに来て、諸国民を弟子とするように命じられました。

ゼブルンとナフタリの民はいずれも、ガリラヤの人であり、キリストの福音は彼らから拡大し、宣べ伝えられ、普及しました。…予表において、ゼブルンとナフタリは、神の救いのために成就されたキリストの贖いの喜ばしいおとずれを拡大し普及する一つのグループを形成します。

適用:青少年/大学生編

神の地上での行動の重要な部分は、福音を宣べ伝えることです。したがってあなたは今日のゼブルンとナフタリになり、福音を人々に運搬し、福音の良き言葉を人々に語るべきです。聖書の中に啓示される福音の良き言葉は、うつ病になることや自殺を防ぎます。

ヨハネ 16:33 私がこれらの事をあなたがたに語ったのは、あなたがたが私の中で、平安を持つためである。世にあって、あなたがたには苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に打ち勝っている」。

ピリピ4:6 何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。7 そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛してくださいます。

1ヨハネ 2:14 若者たちよ、私があなたがたに書き送ったのは、あなたがたが強くあり、神の言があなたがたの中に住んでおり、あなたがたが邪悪な者に打ち勝ったからです。15 世と世にあるものを愛してはいけません。だれでも世を愛するなら、御父への愛は彼の中ありません。16 なぜなら、すべて世にあるもの、すなわち肉の情欲と目の情欲と生活の虚栄とは、御父から出たものではなく、世から出たものであるからです。17 世と世の情欲は過ぎ去っていきます。しかし、神のみこころを行なう者は永存するのです。

福音開展で救われた兄弟の証し:福音開展の最後に神戸駅前ではピラを配っていたとき、50 歳の男性に私たちの若い姉妹が福音を伝えました。その時は忙しかったので 2 日後に大喜びでバプテスマされました。彼はその後、福音を伝えてくれた兄弟姉妹が輝いて見えたことと証しました。

ローマ 10:15 遣わされないのに、どのように彼を宣べ伝えるのでしょうか? 「福音の喜ばしいおとずれを告げ知らせる者の足は、何と麗しいことであろう! 」と書かれています。17 ですから、信仰は聞くことから来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。

祈り:「おお主イエスよ、神の地上での行動にあずかるために、私は福音を人々に運び、福音の良き言葉を語ります。私は友人、隣人、親戚のために名前をあげて祈ります。その後、出て行って福音を伝えます。福音を伝える者の足は神の目にまた平安の子の目に輝いています。ハレルヤ! 福音の務めにあずかることに感謝します。」

♪ God has called us for His purpose, His economy so glorious, For which He was fully processed; Consummated now is He! As the Spirit, He indwells us; As our God allotted portion, Working out His full salvation, Making us the same as He is. (Chorus) Oh, may a clear, controlling vision of the Lord's economy direct my heart, And burn in me until my spirit's wholly set afire! With spirit strong and active we'll press on To consummate God's goal— New Jerusalem, Hallelujah!

II. 御父を礼拝する—御父を中心とする:

パンさきの集会は、信者たちが礼拝する集会です。神の救いの順序によれば、まず主を受け入れ、それから御父に近づきます。私たちはこの礼拝する集会で、まず主を記念し、それから御父を礼拝すべきです。主を記念する部分では、主を記念することを中心とします。御父を礼拝する部分では、御父を礼拝することを中心とし、すべての祈り、詩歌、言葉はみな、御父に向けられるべきです。

① マタイ 26:26-30 イエスはパンを取り、それを祝福してさき、弟子たちに与えて言われた、「取って食べなさい。これは私の体である」。また杯を取り、彼らに与えて言われた「みな、それから飲みなさい。これは…私の契約の血である」。…そして彼らは詩歌を歌ってから、オリブ山へ出かけた。

主イエスはその日、弟子たちと共にパンをさき、詩歌を歌ってから、彼らをオリブ山へ連れて行かれました。それは、御父に会うためです。これは一つの原則を含んでいます。すなわち、私たちはパンをさいて主を記念した後、主に導かれて共に御父を礼拝すべきです。

② ヘブル 2:12 私はあなたの御名を私の兄弟たちに言い表し、召会のただ中で、私は賛美の歌をあなたに歌います。

このほかに、ヘブル人への手紙 2:12 は、主が復活した後、弟子たちに現れ、彼らと集会した時、彼らを兄弟と見なして、彼らに御父の御名を告げ知らせ、また彼らを召会と見なして、彼らの間で御父に向かって歌われたと言っています。主はもともと神のひとり子でしたが、死んで復活して、彼を信じる私たちを再生し、神の子たちとされました。そして彼は神の長子となり、私たち多くの子たちを引き連れて、共に神の御前に進み出られます。彼は復活した後、弟子たちの間に来て、御父の御名を彼の兄弟たちに告げ知らせられました。また彼は神の長子の身分で、彼の多くの兄弟たち、すなわち神の多くの子たちを引き連れて、共に御父をあがめ、共に御父を礼拝されました。この事実に基づいて、私たちはパンさきで主を記念した後、主に導かれて、御父を礼拝すべきです。集会のこの部分では、御父を中心とします。御父に向かって歌う賛美はすべて、主が私たちの内側で導いて、御父に賛美を歌われるのです。

III. パンさきをする人たち:**①** マタイ 26:26 イエスはパンを取り…弟子たちに与えて言われた、

主はパンさきを設立されたその日、彼の弟子たち、すなわち彼の中へと信じ、彼の命を持った、彼に属する人たちに、パンと杯を与えられました。ですから当然、主とこのような関係を持っている人、主を彼ら個人の救い主として認識している人だけが、主のパンを食べ、主の杯を飲んで主を記念することができ、主のパンと杯によって主の死を展覧することができるのです。

② 使徒 2:44-46 信じた人たちはみな…パンをさき

パンをさく人は「信じた人たち」、すなわち信じて主の救いの恵みを受け、主の命を持ち、主に属する人であるべきです。そのように信じた人だけがパンをさくことができ、またそうして良いのです。ですからすでに救われて、主に属し、罪の中に生きていない人だけが、主のパンを食べ、主の杯を飲む資格があります。その他の人は、だれも主のパンと主の杯にあずかることはできません。

IV. パンさきをする時:**①** 使徒 2:42 そして、彼らは…パンをさくこと…を堅く持ち続けた。

使徒行伝 2:42 で、初期の信者たちはみな、パンをさくことを堅く持ち続けたと言われています。それは、彼らが絶えず継続して常にパンをさいたことを意味します。この模範は私たちが倣うべきものです。

② 使徒 2:46 日ごとに…パンをさき、

初期の信者たちは、パンをさくことを堅く持ち続け、日ごとに行ないました。当時、彼らは主に対して熱く燃え、主を深く愛していたので、当然、日ごとにパンをさきました。このことは、もしできることなら、主を記念するためにパンをさくことが多ければ多いほど良いことを告げています。

③ 使徒 20:7 そして週の初めの日、私たちがパンをさくために集まった。

初期の信者たちは、日々パンをさくことによって始まりましたが、やがて徐々に週に一度、週の初めの日に行なう習慣となりました。週の初めの日、すなわち主日は、主の復活の日であり、新しい週の始まりであって、それは古い事柄が過ぎ去り、新しい生活が始まったことを表徴します。ですから、この日にパンをさいて主を記念することは、最も適切です。なぜなら私たちがパンをさくのは、主の死を展覧するのですが、実は復活の中で彼を記念しているからです。

④ コリント 11:20 主の晩餐を食べる。

パンをさくことは主の晩餐を食べることなので、晩に行なうことが最も良いのです。さらに、晩はすべての仕事を終えて、すべての重荷を下ろしているのです。心は軽くされ、霊は新鮮です。私たちが安心して主を記念することができる適切な時であり、主の臨在を感じるのが容易です。しかしこれは律法的な事ではありません。もし晩に行なうことに差し支えがあるとか、都合が悪いようでしたら、その状況を考慮し、朝や午後に時を変えてもよいでしょう。

祈り:「おお主イエスよ、私のために血を流し、私を贖ってください。あなたの贖いのゆえに私は多くの兄弟たちとパンさきにあずかる特権を得たことを感謝します。新しい週の始まりに、主の死を展覧し、主を記念するパンさきを堅く持ち続け、主の再来を待ち望みます。」

178 主を賛美する—彼を記念する

- | | |
|---|---|
| 1. この宴せきのゆえ、
ご自身をエンジョイする
御身を捨て、われらに
血をながし、われらに
(復)見よ、宴せきを！
ふかき意義を、だれ | 主よ感謝します；
こよなき宴せき。
分けあたえしパンと、
飲ませるさかずき。
何というしるし！
知り得るや！ |
| 2. あがないの死にて
ご自身をあたえて
パンさかずき、あずかり、
ご自身を食べ飲みし、 | いのちをたまい、
わがぶんとす。
主の死、告げ知らせ、
永えんに記念する。 |
| 3. おく義なるからだ
肢たいとまじわり、
いましゆくふくするは、
血によりてすべての | しめすパンにより、
いちをあかしす。
せいなるさかずき；
せい徒とまじわる。 |
| 4. とわの分なる主を
王こく待ちのぞみ、
王こくあらわるとき、
ご自身にあずかりて | いまあじ見する；
さい臨うながす。
勝利者たちともに、
はなよめとならん。 |